

セアカゴケグモ

目科名：クモ目ヒメグモ科
学名：*Latrodectus hasseltii*
原産地域：オーストラリア

ハイイロゴケグモ

目科名：クモ目ヒメグモ科
学名：*Latrodectus geometricus*
原産地域：オーストラリア、南アメリカ

【どんな被害を引き起こすのか】

健康：牙で咬む ・素手で触ったり、捕まえたりしようとすると、咬まれることあり(日本においては死亡例なし)

セアカゴケグモ 上側：メス 下側：オス

<メス>
・体長 12～15mm
・脚が細長く、腹部が球形

腹部背面



* 腹部の背面に目立った赤色の縦帯状の斑紋あり

腹部腹面



腹面には赤い砂時計状の模様あり

<オス>
・体長 3～4mm
・メスよりも小型
・腹部はやや細長く、腹面にはメスと同じ砂時計状の赤い模様あり



*

ハイイロゴケグモ 左側：メス 右側：オス(いずれも腹部背面)

<メス>
・体長 7～10mm
・脚が細長く、腹部が球形

<オス>
・体長 2.5～4mm
・メスより小型で、腹部はやや細長い

腹部腹面には砂時計状の淡赤色紋あり



**

・腹部背面に縁取りのある斑紋が点在(斑紋の大きさや形状は様々)
・腹部背面は灰色から淡褐色で、黒色の個体もあり

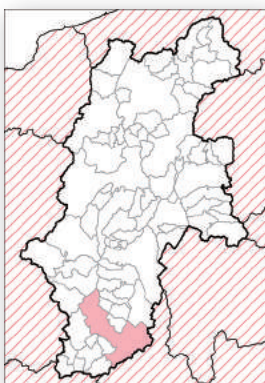


【生息場所・行動・食べ物】

- ・日当たりが良い場所や暖かい場所にある物陰や隙間に生息
- ・自然環境の下では、開けた裸地から森林にかけての崖地、岩下の隙間や窪み等に生息
- ・昆虫等を食べる
- ・強い毒性をもつ
- ・咬まれて問題になるのはメスのみ(オスは牙が小さく人の皮膚を刺せないため)

【どこまで広がっているか】

セアカゴケグモ



2019年現在
■ 単発的な確認 ▨ 一部地域に定着

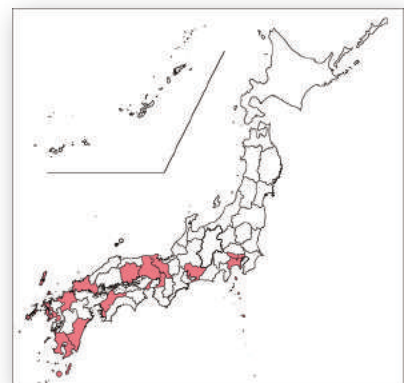
長野県では

- ・2019年8月セアカゴケグモを飯田市で初確認(定着は未確認)
- ・ハイイロゴケグモの県内での分布はなし

全国では

- ・セアカゴケグモ、ハイイロゴケグモ、いずれも1995年に国内初確認
- ・セアカゴケグモは、2019年現在45都道府県で発見記録があり、西日本では定着している地域も多い
- ・ハイイロゴケグモは、13都府県の主に港付近で発見記録

ハイイロゴケグモ



2019年現在
■ 定着

【発見したときは】

- 疑わしいクモを見つけた場合は、触らない
(素手で触ったり、捕まえたりしようとすると、咬まれることがある)
- 基本的にはおとなしく、攻撃してくることはない
(脅かされると死んだふりをして動かなくなることも)
- 可能であれば、市販の家庭用殺虫剤をかけたり、靴で踏み潰したりして駆除する
(駆除した個体は、種を特定するために必要です)
- 同じようなクモが発見現場の周りにいないか観察する
- 大きさが分かるよう写真を撮り、お住まいの市町村または県地域振興局環境課に連絡する
(発見日時、発見場所、特徴、発見時の状況等)



セアカゴケグモ



ハイイロゴケグモ

【咬まれたときは】

※日本においては死亡例なし

<症状>

- 咬まれると、針で刺されたような痛みを感じ、その後、咬まれた場所が腫れたりする
(すぐに痛みを感じない場合もある)
- 症状のピークは3~4時間で、数時間から数日で症状は軽減する
(まれに、脱力、頭痛、筋肉痛、不眠等の全身症状が数週間継続する場合あり)

<処置>

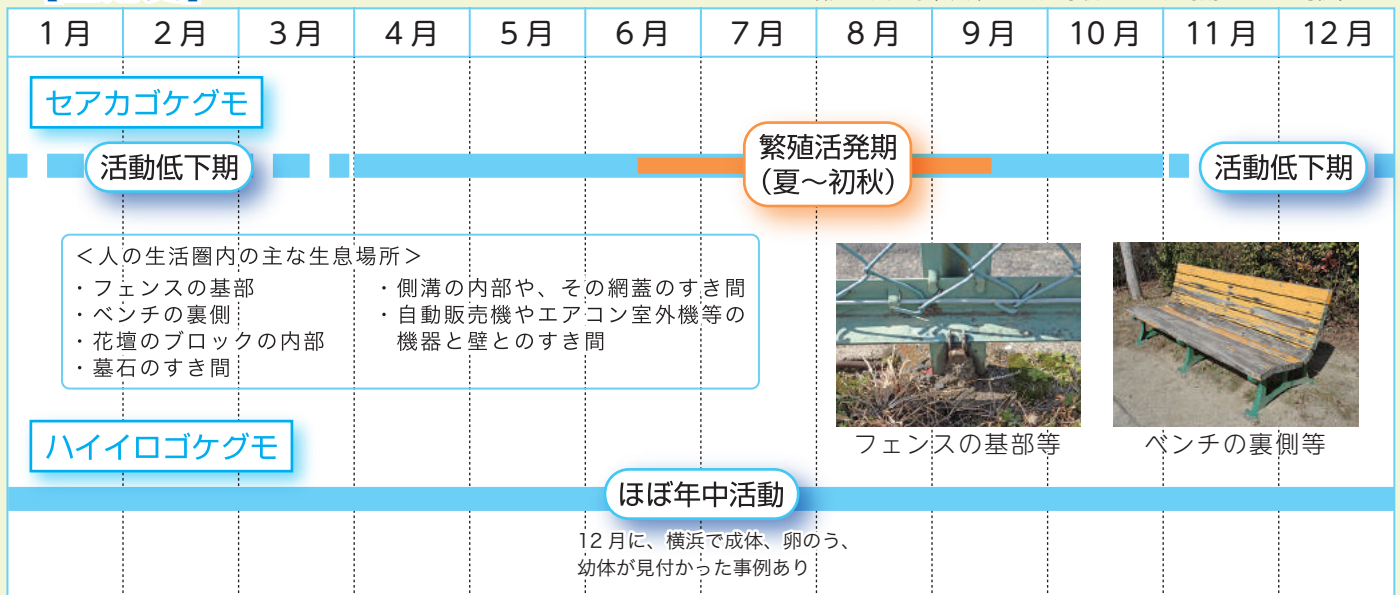
- 咬まれた箇所を水で洗い、患部を冷やす
- 咬まれた場合は重症化することもあるので速やかに医療機関を受診する
(咬まれたクモを殺して持参すると、適切な治療につながる)

<咬まれないために>

- 庭の手入れや掃除をする時は、厚手の手袋や靴下を着用する
- 屋外に出っぱなしにしている靴やサンダルを履く時は、中にクモが入っていないか確認する

【生活史】

※生活史は、長野県以外の地域の事例のため、時期がずれる可能性あり



フェンスの基部等



ベンチの裏側等

【防除方法】

通報 早期発見が最も重要!

- 疑わしいクモがいたら、市町村または県に連絡をする ※捕獲しても生きたまま別の場所に移動させないこと

巣の駆除 拡大を防ぐ

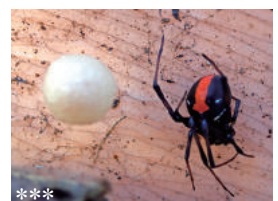
- 巣全体に殺虫スプレーを吹きかける

成虫の駆除 拡大を防ぐ

- 殺虫スプレー、踏み潰す、熱湯等で駆除する

巣の中の卵の駆除 拡大を防ぐ

- 割り箸等でつまみ、ビニール袋に入れる
- 袋の中に殺虫スプレーを噴射し、踏み潰す
- ビニール袋は、口を縛り、ゴミとして処分する



卵(卵のう)とセアカゴケグモ